

第42回
東北地区剣道少年団研修会
体験・実践発表会



と き:令和元年11月17日(日)
と ころ:花巻市 ホテル花城

主 催:(一財)全日本剣道道場連盟
主 管:岩手県剣道道場連盟

剣道少年団々員綱領

〈体 力〉

- 一、わたくし達は、
剣道を学び、正しい心と、強健な体をつくります。

〈責任感〉

- 一、わたくし達は、
道場において、正しい礼儀と、他人に迷惑をかける責任感を養います。

〈愛 〉

- 一、わたくし達は、
剣道を通して友情を深め、思いやり心を持つ人間となります。

〈 国 〉

- 一、わたくし達は、
日本人としての誇りを持ち、国を愛し、立派な社会をつくります。

〈世 界〉

- 一、わたくし達は、
多くの国々の人と交わり、力を合わせて、平和な世界を築きます。

第42回 東北地区剣道少年団研修会

司会進行

岩手県剣道道場連盟 常任理事 菅崎 晋

■ 次 第 ■

1. 開会
岩手県剣道道場連盟 理 事 長 岩崎 敬 郎
2. 開会挨拶
岩手県剣道道場連盟 会 長 菊池 長 悦
3. 審査員紹介
4. 審査委員長挨拶
岩手県剣道道場連盟 常任理事 照井 悦 信
5. 体験・実践発表 小学生の部
6. 休 憩
7. 体験・実践発表 中学生の部
8. 成績発表及び表彰
9. 講 評 審査委員長
岩手県剣道道場連盟 常任理事 照井 悦 信
10. 閉会挨拶(次期主管剣道道場連盟)
青森県剣道道場連盟 会 長 前田 武 興
11. 閉 会



祝 辞

一般財団法人全日本剣道道場連盟会長

日本剣道少年団指導本部長 下 村 博 文

この度、東北地区剣道少年団研修会が岩手県剣道道場連盟主管のもと、関係者各位のご尽力により開催されますことを、心より感謝申し上げます。

いまだ東日本大震災復興の最中、台風により甚大な被害を受けられました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

度重なる大きな災害に立ち向かう力の中で、最も重要なものは人の声と、その声が呼ぶ各方面からの支援です。コンピュータの発達により社会の利便性が著しく高まり、多くの仕事や処理が人工知能に代替される時代になりました。しかし、そのコンピュータをどのような場面で、どのように使うかを考え行動するのは人間です。物資の面においても精神の面においても、助け合いを生む人と人の繋がりは、大きな困難に立ち向かうときにコンピュータに代わることのできない最も重要なことだと考えます。

日本剣道少年団の活動は人間同士の繋がりを、剣道を通して発展させていこうという取り組みです。そしてこの体験発表会では、子供たちが剣道を通じて学んだこと、難題に乗り越えたことなど多くの学びを発表します。保護者や指導者の方々は、この子供たちの声を直に聞き、少年少女の成長を支える一助として頂きたいと思います。子供たちの心の成長こそが、日本の未来を支える宝です。応援に参加する少年剣士皆さんも、仲間の発表を聞いて、自ら考える力を一緒に身に付けて頂きたいと思います。大人も、たくましく育つ少年剣士たちから多くのことを学んで頂ければ幸いです。

本研修会が皆さんにとって素晴らしい成長の機会となり、交流、親睦を深める場となることを心より念願し、挨拶といたします。



歓迎のことば

岩手県剣道道場連盟

会 長 菊 池 長 悦

東日本大震災から8年8ヵ月が経過し、復興はまだ時間がかかりますが、本日ここに、東北地区の各県予選を経て、代表になられた少年少女剣士を迎え、第42回東北地区剣道少年団研修会を岩手県において開催できますことは誠に喜ばしく思います。

剣道は人間形成が目的でもあります。本研修会は剣道を学びながら社会奉仕活動などで体験し感じたことを発表していただきますが、発表者の考えを通して、指導者や保護者の皆さんは、多くの少年少女剣士の更なる成長へと導いていただきたいと思います。

本日の研修会で、最優秀賞に選ばれた方は全日本少年剣道研修会へと進みます。昨年は全国大会において、小学生の部で岩手県新明館橋市道場の橋場円さんが最優秀賞に、中学生の部で福島県振武館須賀川市剣道スポーツ少年団の須田日菜子さんが優秀賞に輝きました。

東北地区のレベルは確実に高くなっております。

応援として参加されている少年少女の皆さんも、よく聞いて、感じて、考えて下さい。思っていることを順序立てて考え、まとめて文にし、言葉で伝えることは、これからの生活でとても大切なことです。

今回は自分も発表したいと思って頂きたいと思います。

本日の発表がよい思い出になることを願い、歓迎のあいさつといたします。

第42回 東北地区剣道少年団研修会大会役員

大会会長	一般財団法人 全日本剣道道場連盟会長 日本剣道少年団指導本部長	下村博文
大会副会長	(主管県順)	
	岩手県剣道道場連盟 会長	菊池長悦
	青森県剣道道場連盟 会長	前田武興
	秋田県剣道道場連盟 会長	鎌田耕平
	山形県剣道道場連盟 会長	五十嵐義一
	新潟県剣道道場連盟 会長	浅原行雄
	福島県剣道道場連盟 会長	室井伊久男
	宮城県剣道道場連盟 会長	遠藤紀一
大会委員長	岩手県剣道道場連盟 副会長兼理事長	岩崎敬郎
大会委員	岩手県剣道道場連盟 常任理事	西田裕
	岩手県剣道道場連盟 常任理事	太長根浩
	岩手県剣道道場連盟 常任理事	佐藤暢芳
総務委員長	岩手県剣道道場連盟 常任理事	菅崎晋
総務委員	岩手県剣道道場連盟 理事	佐藤光寿
	岩手県剣道道場連盟 理事	佐々木早苗
	岩手県剣道道場連盟 理事	澤口将祐己
	岩手県剣道道場連盟 理事	田畑作典
	岩手県剣道道場連盟 理事	松尾享
	岩手県剣道道場連盟 理事	千葉環
	岩手県剣道道場連盟 理事	猫塚篤志
	岩手県剣道道場連盟 理事	菅原貴良司

第42回 東北地区剣道少年団研修会大会役員

審査委員長 岩手県剣道道場連盟 副会長 照井悦信

審査委員 (主管県順)

岩手県剣道道場連盟	常任理事	太長根 浩
青森県剣道道場連盟	常任理事	高松 大仁
秋田県剣道道場連盟	事務局長	及川 正
山形県剣道道場連盟	理事長	植松 弥内
新潟県剣道道場連盟	理事	洋谷 将人
福島県剣道道場連盟	副会長	佐藤 孝康
宮城県剣道道場連盟	副会長	齋藤 忠雄

【体験発表】

■ 小学校の部 ■

No	題名	県名	道場名	学年	氏名
1	One for all,all for one	岩手	新明館橋市道場	6年	岩館 柚乃
2	自信を持つこととあきらめないこと	岩手	北上警察署剣道スポーツ少年団さくら館	6年	及川 讚香
3	武道とスポーツの違い	青森	野辺地剣友会	6年	三國 桜空
4	自分に勝つ	秋田	秋水館鎌田道場	6年	三浦 帆乃夏
5	克己 己に克つ	山形	東栄館道場	6年	本間 大心
6	目標とは	新潟	心武館道場	6年	鈴木 耀人
7	剣道で学んだこと	福島	陵武館山崎道場	6年	松井 悠真
8	自分を信じて	宮城	正心学館道場	6年	濱名 凛音

■ 中学校の部 ■

No	題名	県名	道場名	学年	氏名
1	仲間と共に	岩手	新明館橋市道場	2年	村松 和花菜
2	私の剣道	岩手	和賀巖身会	2年	下留 梨瑚
3	剣道から学んだ私	青森	青森絃武館	3年	鳴海 綾音
4	交剣知愛	秋田	土崎道場	2年	宇佐見 千紘
5	つながり広げて強くなる	山形	清流館道場みずき	1年	中田 喜子
6	伝統	新潟	心武館道場	2年	鈴木 晴菜
7	「振武」に込められた思い	福島	振武館	1年	須田 琴菜
8	形のない宝物	宮城	仙松館	1年	狩野 景衣

※当日の発表順は前日の役員・監督会議の席上での抽選により決定しますので、上記の順で発表するものではありません。

第42回 東北地区剣道少年団研修会採点表

小学生の部

NO	氏名	県名	発表順位	内容 (50)	表現力 (30)	姿勢態度 (20)	計 (100)	順位
1	岩館 柚乃	岩手						
2	及川 讚香	岩手						
3	三國 桜空	青森						
4	三浦帆乃夏	秋田						
5	本間 大心	山形						
6	鈴木 耀人	新潟						
7	松井 悠真	福島						
8	濱名 凜音	宮城						

中学生の部

NO	氏名	県名	発表順位	内容 (50)	表現力 (30)	姿勢態度 (20)	計 (100)	順位
1	村松和花菜	岩手						
2	下留 梨瑚	岩手						
3	鳴海 綾音	青森						
4	宇佐見千紘	秋田						
5	中田 喜子	山形						
6	鈴木 晴菜	新潟						
7	須田 琴菜	福島						
8	狩野 景衣	宮城						



One for all, all for one

岩手県 新明館橋市道場

岩手大学教育学部附属小学校 6年 岩 館 柚 乃

五年生の時のチームは、私以外はみんな六年生でした。だから、私はいつもみんなについていき、ただただ楽しいという気持ちだけで何も考えていませんでした。今年は四年生から六年生のチーム。最高学年の六年生。六年生は、キャプテンのゆいちゃんとはるや、そして私の三人です。みんなを引っ張っていかなくては。チームをまとめていかなくては。

私は六年生になってから「チーム力」について考えるようになりました。

でも、チーム力って何だろう。チーム力を上げるためにはどうしたらいいのだろう。チームみんなで一緒に行動してみたらいいのかな。一緒に遊んでみればいいのかな。いろんな話をするのはどうかな。答えはなかなか出てきません。

母ともどうしたらチーム力が上がるのか話したり、アドバイスをもらったりしました。そんな時、母から聞いた言葉がこの言葉でした。

「one for all, all for one」

「一人はみんなのために みんなは一人のために」

今の私に響く言葉でした。こういう気持ちでみんながいたらとても良いチームになれるんじゃないかな、と思いました。

去年の秋にキャプテンが決まった時、私は彼女をフォローする役になろうと決めました。一人で責任を負わせないようにしよう。苦しい時は助け、嬉しい時は一緒に喜び合えるようにしよう。私ができることをできる限りしていこう、と。

チームのために挑戦すること

仲間を信じること

自分自身に勝つこと

責めないこと

そして私が一番大切だと思うこと、それは

みんなで一緒に過ごすことを思いっきり楽しむこと

私ができることは、これを実践することです。

この夏、試合を一つずつ終える毎に、確かな「チーム力」を感じ始めています。「どうしてだろう」と考えた春から、「チームみんなでいることが楽しい」と思えるようになってきました。試合が終わった後のモヤモヤした気持ちが、今はみんなでがんばったという気持ちに変わってきました。春から夏の間、みんなで一緒に稽古をし、いろいろな大会に出て過ごす中でお互いのことを理解してきていることが、この試合が終わった後の気持ちの変化なんじゃないかな、と思います。

ここで気がついたことがあります。それは、チーム力を上げることに答えはないということです。一人ひとりが小さな努力をしたり、みんなへの思いを持ったりするからこそその「チーム力」だとわかりました。

まだまだ始まったばかりの挑戦です。もしかしたら、挑戦している間にこのチームが最後になってしまうかも知れません。それでも、今思っている挑戦していることが次につながるもの、新たな一歩になるものと信じて、これからもみんなで剣道を楽しんでいきたいです。



自信を持つこととあきらめないこと

岩手県 北上警察署剣道スポーツ少年団さくら館
北上市立飯豊小学校 6年 及川 讚香

私が剣道を始めたのは、保育園の年長のときです。私が剣道で成長してきたと思うのは、五・六年生になった頃です。それまでは個人戦でも良い所までいけず、団体戦ではみんなの足を引っ張ってばかりいました。部内戦でもみんなに負けてばかりいて、その頃は剣道があまり好きではありませんでした。しかし、そんな私が剣道に本気で取り組むようになったのは、ある一つの行事がきっかけでした。それは、毎年冬の終り頃にある、さくら館のAチームを決める総当たり戦でした。当時、四年生だった私は、自分より年下の人にもたまたま負けていました。このままではAチームに残れないかもしれない。自分より学年が下の人に追いこされるかもしれない。それは年上としてのプライドが許しませんでした。総当たり戦の一ヶ月前から必死で自主練をしました。今さらがんばっても無理だろう。それでもあきらめず一生懸命がんばりました。そして何とかギリギリ五位で、さくら館のAチームになることができたのです。私はとても嬉しかったです。ここで初めて、がんばった努力が報われる嬉しさを知ることができたのです。

しかし、そこからまた大変でした。副将というポジションはどのような役割なのか、それが理解できるまで時間がかかり、自分のせいでAチームが負けたときは針のむしろにすわっている気分で、引きずってばかりいました。先生や親に同じことばかり注意され、本当に自分にAチームが務まるのだろうか、スランプでの時期もたくさんありました。それでも、ねばって、ねばって、辞めるわけにはいかないといっていました。そして、その頃あった市内での大会の個人戦で、部内戦でいつも負けていた同学年の人と当たることになりました。私は、いつもみたいに負けてしまうだろうなと思っていました。でも勝つかもしい、という、不思議とどこからかわく自信もありました。そんな中、試合が始まります。そして試合の中盤、相手が動き出した時、出小手を決めることができ、私の一本勝ちとなりました。奇跡か、実力か、分かりませんでした。それでも、いつも負けている人に勝った。という事実が自信へとふくらんだのです。そして決勝まで進んだものの、一本決めることができず準優勝となりました。しかし、負けていた人に勝ったという嬉しさ、優勝とまでは至らなかったけどつかんだ、準優勝という名誉。この二つが、これからの私にとって大きな自信となったのです。自分は強くなってきている。そう思うと、部内戦でも勝てるようになってきました。さらには、今年の県大会で決勝まで行き、決勝の相手から一本取ることができたのです。このようにして、私は、段々と自信をふくらませていきました。そして、岩手県の強化選手、三十人の中に選ばれました。それを聞いたとき、耳を疑うほどびっくりしました。まさか、自分が選ばれると思っていなかったからです。とても嬉しかったです。大阪行きを目指して、強化錬成に臨みました。最初は歯が立たなかったけど、しばらくすると、みんなにも勝てるようになりました。そして青森合宿の十人のメンバーに選ばれるまでになりました。しかし、大阪行きは叶いませんでした。とても悔しかったです。十人に選ばれたからには、その名に恥じないよう、しっかり努力して強くなりたいです。

数年前に、母が言っていた言葉が、今は分かる気がします。数年前、母は、「あなたは勝つコツをつかめれば、もっと勝てるようになる」と言っていました。その頃の私には意味が分かりませんでした。勝つコツって一体何？。言われたときはそのことばかり考えていました。でも今考えると、私にとって勝つコツは、

- ・自分は強いんだと自信を持つこと。
- ・試合をするとき、自分が負ける想像をしないこと。
- ・試合前にルーティーンを決め、それをしっかり実行すること。

そして、

- ・どんな状況でもどんな相手でも、最後まで決してあきらめないことです。

私は剣道をすることで、自信を持つことと、あきらめない大切さを学びました。なので、今まで負けていた相手にも勝っていくことができたのです。これは、これからの私にとって、大きな財産となると思います。この学んだことを、剣道だけでなく、色んなことに活かしていきたいと思います。そして、くじけそうになった時は、自信を持って、あきらめず前に進み、自分と向き合っていこうと思います。



武道とスポーツの違い

青森県 野辺地剣友会

野辺地小学校 6年 **三 國 桜 空**

剣道をやっていると、おどろかれたり、「すごいね」と言われたりすることがよくあります。この競技は、日本でも世界でもよく知られている武道の一つですが、バレーボールやバスケットボール、サッカー、野球のような球技とは違って、気軽に始めることが少し難しいからでしょうか。

私が剣道生活をスタートすることになったのは、剣道をやっている父や兄の姿を目にしたときに、素直にやってみたいと思ったからです。よく「きっかけ一つ」と言いますが、本当にその通りです。剣道をやっている姿を目にすることがなかったら…と考えると、たぶん剣道に興味を持つことすらなかったと思います。そういう意味では私はラッキーでした。

六年間剣道が続けてみて、武道とスポーツの違いについて考えてみました。まず武道とスポーツは似ているようで本質は違うものだと思います。道がついている、それは「精神修行」で終ることがない一生続く道、茶道、華道、書道も同じで自分の心が表に出てしまいます。かたちより「心」が大切なのです。スポーツはあくまで相手に勝ってこそ、相手より多く点数を取ってこそになってしまい、そのためには手段を選ばないものです。ある意味平和な戦いかも知れません。

剣道が、もし勝ち負けとするならば、ただ面、小手、胴の部位に竹刀を相手より早く当てれば良いだけになってしまいます。単なる早押しクイズと一緒に当てっこ剣道になってしまうのです。剣道は礼に始まり礼をもって戦い礼をもって終ると習いました。礼に始まれば、たとえ相手が年上の人であろうと年下の人であろうと、一生懸命ぶつかり合う、それが相手を尊重することだと思います。一期一会、人と人との出会いは一生一度のものであり大切にしなければなりません。交剣知愛、相手の剣風を尊重しお互いに理解し合い剣道の向上につとめる。武道の教えでの最も大事なことだと思います。スポーツはビデオを見て判定を行ったりしています。ビデオを見てやり直しなどもあります。

剣道は三人の審判が正しく判定してやりなおしなどはありません。このように考えて見ると武道とスポーツは似ているようですが違うものだと思います。

私は夏休みになると海水浴場の清掃奉仕をします。朝六時から小中学生と父兄の方々など百人くらい参加します。ごみ袋一杯になるまでごみを拾います。毎年行なわれているので、みんなでたのしく活動に参加しています。私は六年間剣道をやっているうちに思ったことは小学三年から女の子が私一人だったことです。女の先生がいたので力づくよく思っていました。ところが先生はぐあいかわるく一年前からけいこを休んでいます。けいこは厳しいけれども私は大好きな先生です。先生は剣道は強いだけでは意味がない、相手の気持ちを思いやる心がなければいけないし、つねに送りむかえしてくれるお父さんお母さんにありがとうの気持ちを持ち、仲間との思いやりも大切にできる人にならなければ剣道をするしかないと、いつもミーティングの時に話してくれます。早く元気になってけいこをしてほしいと思っています。中学校へのったら団体戦を組めるように剣道のたのしさをアピールして部員をかんゆうしたいと思います。

私は剣道を通して学んできたことをこれからの自分の進む道にしっかりと身につけたいと思います。将来は剣道をいかして婦人警官になることが目標です。きびしいけいこにめげず明日に向かって、ヤー、コテ、メン、ドウ！



自分に勝つ

秋田県 秋水館鎌田道場

秋田市立広面小学校 6年 三浦 帆乃夏

「面あり！！」「勝負あり。」自分に旗が上がると興奮して、とても嬉しい気持ちになる。

私が剣道を始めたのは、まだ幼稚園に通っていた頃、父と一緒に二人の兄の練習を見に行っただけだ。兄の竹刀をおもちゃのように振り下ろし「重いのにすごいね。」「力持ちだね。」と周りに言われ、はずかしくもあり嬉しかった事を覚えている。それから自然に私も、剣道の道に進んだ。稽古で教わる事は何もかもが楽しく、二時間の練習もあっという間だった。

数ヶ月後、初めての試合の日をむかえた。道場とは違い、たくさんの人。ドキドキしながら開始線へ向かう。「始め！！」と審判の声で勢いよく、大きな相手に立ち向かった。しかし、自分の竹刀はなかなか相手にとどかない。たった二分の試合だったが、一分ほどで疲れてしまい、竹刀をおろして泣いてしまった。もちろん結果は二本負け。試合が終わり父、母の元に行くと、「すごいね。がんばったね。」とほめてくれた。興奮した私は、母に「帆乃夏、次も試合するの？」と聞くと、母は少し困った顔で、「今日は負けちゃったからもう試合は無いよ。」と言われ、私はまた泣いてしまった。もっともっと試合がしたい。試合で勝ちたい。という思いが強くなり、私はまた熱心に稽古に励んだ。

月日が経つうちに自分自身に少しずつ力がついてきたことが何となく分かってきた。しかし、周りもだんだんと強くなり始めていた。私は、あせりを感じ自分が勝てないことでふてくされたり、イライラすることがたびたびあった。剣道なんか楽しくない。剣道をやめたい。という思いが次第に、強くなっていった。「こんなに練習しているのに、なんで勝つことができないのだろう。」と、あせる気持ちでいっぱいだった。道場では、館長先生に「人の言う事を聞かない。」「すぐにふてくされる。」と言われ、父には練習や試合で泣いてしまうたびに「泣いていたって強くならない。」「だから弱いんだ。」と言われることが多くなり、ますます剣道が嫌いになっていった。「素直になれ。」「ふてくされるな。」「泣くな。」と言われるたび、頭では分かっているはずなのに自分の気持ちをおさえることが出来ず何度も同じ事をくり返し、そのたびに叱られていた。

秋水館では、剣道ノートという物がある。自分の悩んでいる事、分からない事、気付いた事などを書き、毎回、館長先生に提出するノートの事だ。私はこのノートが大嫌いだった。毎回出すのが面倒だったからだ。初めはほんの二・三行しか書く事が出来なかった。でも、館長先生は、たった二・三行のノートにきれいな字でたくさんの返事を書いてくれた。ノートを出さず叱られる事もあったけど今は、毎回出す事が出来ている。先生からの返事を改めて読んでみると、素直になれ。ふてくされるな。と、何度も何度も書かれていた。この時から私は、ふてくされで泣き虫の自分を見つめ直し、素直な気持ちで剣道に励んだ。先生に言われた事は素直に聞く事で出来なかった事が出来るようになり、同時に自分の剣道に自信がついてきた。

四年生の冬、私の道場では門下生による立ち切り試合が行われた。選ばれた二人のもと立ちに対して残り的人たちが順番に試合をしていく。三十二分間休む事が出来ず、もと立ちは、すごく大変だ。しかし私は、このもと立ちをどうしてもやりたかった。自分の思い通りに行かなければふてくされ、すぐに泣いてしまうような弱い自分を変えたかったからだ。そして私は、三十二分間の試合を立ち切る事が出来た。「やったあ。」今までの弱い自分に勝つ事が出来た瞬間だ！！

ふてくされない自分、泣いてばかりの自分に勝ってこそ剣道は強くなれるに違いない。

私は、これからも自分に勝つ！！



克己 己に克つ

山形県 東栄館道場

鶴岡市立東栄小学校 6年 本 間 大 心

「よっしゃ、優勝だ。」と

春の県大会の決勝で、心の中で叫んだ。仲間や保護者もとても喜んでくれた。でも優勝は簡単なものではなかった。この間、自分自身も様々変化し学んだ。そこをふり返り、次の自分の成長につなげたい。

僕は、一年から剣道を始めた。いとこの試合を見て、小さいけれど、体の大きな相手に恐れることなく面や小手を打ちながら立ち向う姿を見て、かっこいいと思い、東栄館道場に見学に行ったのです。とても楽しそうにけいこしていたので、すぐに入団を決め、先ばい方と一緒に始めました。

けいこの終わりに、先生に「克己、己に克つ」という言葉をいただきました。心の中のもう一人の自分に打ち勝て、という意味でした。相手を恐れる自分、わがままな自分、けいこをなまける自分などに勝って初めて、本当の強い自分につながるという言葉が、のちに自分に大きく関係してくるのでした。

これまで全国大会の予選を通過し、日本武道館や水戸大会に行きましたが、全国の壁は高く、ともに初戦敗退。あらためて全国大会に集まるチームのレベルの高さを実感しました。

四年の後半から長いスランプ状態に入ってしまった。攻めようにもやられてしまうという気持ちが出て、攻めきれず、前に出ることが出来なくなったのです。打てば返されてしまうのではと、中途半ばな打ちになり、守り中心で引き分けが続き、チームの足を引っ張っていました。その頃は、姿勢は傾き、袴のひもをだらしなく外に出すなど所作もおこたり、何一つ正しくできていなかったのです。

禅の教えに、「威儀即仏法、作法是宗旨」という言葉があると父に伺いました。あいさつはもちろんのこと、食事や服装、トイレまで、それぞれが正しい決まりがあり、それを行う心を持つこと。例えば玄関で脱いだ靴はどうすべきか、トイレのスリッパはどうあればいいのか、剣道でもよく言われていることがあるぞと。僕は、ただ勝ちたい一心で剣道を考え、負けてしまう恐怖にかられ、日常の自分の姿を見失っていたのです。

相手を敬う、ていねいに礼をする、相手に合わせてそんきよする等、大事なことを自分勝手に行っていたもう一人の自分がいたのです。物事の決まりを正しく出来ないものが、自分の心をコントロール出来ない。無心とは素の心なのだ。様々な思いや恐れ、まさにもう一人の自分が心の中を占りようするようでは、無心になれない。大事な基本動作や礼法をしっかりやるのが肝心だと気づきました。

五年の終わりに、ライバルとの対決があり、何度も延長しながら最後の一本を打つ機会をうかがっていました。平常心を保て、自信のある面を打つチャンスが必ず来る。攻めながら竹刀の先で、相手を探ろうと集中しました。まもなく相手が打とうとする瞬間が見え、ここだと放った面は、あい面となり、残念ながら旗は相手側に上がってしまいました。悔しさはありましたが、自分が少し成長した気分になりました。涙は止まりませんでした。もう一人の自分に打ち勝てた瞬間でした。

それ以来、吹っ切れたように自分の試合に恐れはなく、ほとんどの試合を大将で務める自分は、後輩につながる剣道をしようと練習に励んでいます。

克己、己に克つために、まず基本を正しく学び、日常生活でも礼節を大切に、自然に行動が伴うよう心がけ、文武両道で、中学に進んでも剣道を頑張っていきます。



目標とは

新潟県 心武館道場

新潟市立東山の下小学校 6年 鈴木 耀 人

「日本武道館で試合がしたい。」

これは僕がずっと持ち続けていた目標です。僕が初めて日本武道館へ行ったのは、小学四年生の時、姉の道場連盟全国大会の応援でした。初めて見る日本武道館は、とても大きく、迫力があり、そこで試合をする人たちは、みんな自信にあふれ、かっこよかったです。

しかし、応援の僕は試合会場に入れず、三階席からの応援でした。いつか僕もこの会場に入りたいと思いながら見ていました。

昨年、接戦の末、全国大会出場を決めた仲間は、日本武道館で輝いていました。僕は再び応援として連れて行ってもらいましたが、気持ちは違いました。

チームで補欠と思っている自分があること、同じ学年の仲間は、そこで試合をしているのに、僕は何をしているのだろう、くやしさをいっぱいでした。来年は僕がこの会場で試合をする、そのために、ひとつひとつのけい古を大事にし、必ず日本武道館に戻ってくると決意しました。

今年の道場連盟予選会。僕は、今までで、一番いい試合ができたと思います。しかし、チームは負けてしまいました。僕は、悔しくて、悔しくて涙が止まりませんでした。もしかしたら敗者復活戦があるかもしれないと、あきらめきれずに、他の試合結果を待っていました。

「面を片付けなさい。」

と先生に言われ、ここで目標だった日本武道館の夢は消えてしまいました。

予選会から一ヵ月。何と日本武道館で行われる、J R 東日本ジュニア剣道大会出場の話が届いたのです。僕たちの力での出場ではないけれど、日本武道館で試合ができることに変わりはありません。僕はうれしくて、先生方に感謝の気持ちでいっぱいでした。

日本武道館へ向かう日、嬉しさのあまり、防具袋がとても軽く感じました。やっと、あこがれの日本武道館の試合会場へ入ることができたのです。日本武道館での試合は、一本の重みが違うように感じました。無駄な動きなど何一つない、一本のために、全てがつながっているように感じました。

僕はこの夏、もう一つ大きな目標がありました。それは、新潟市の代表選手になることです。予選会の日、リーグ表を見て僕はびっくりしました。おとし代表をかけた試合で負けた相手と、同じリーグだったのです。リベンジと大人たちは簡単に言うけれど、あの時のくやしい気持ちを思い出し、とても不安になりました。でも、今年の僕は、同じ道場の仲間と代表になりたいという、強い目標がありました。

急に強くはなりません。足を動かす、前へ出る、まっすぐ打つ。先生方がいつも教えてくれる基本を大切に試合にのぞみました。

延長の末、予選を勝ち抜いたときは、嬉しさとほっとした気持ちで面の中で泣いてしまいました。先生からポンポンと頭を叩かれ、

「よかったな。」

と言われたときは、本当にうれしかったです。試合は対一だけど、ひとりだけで戦っているわけではないと感じました。一緒に喜んでくれる先生方がいる、仲間がいる、僕は感謝の気持ちで、涙が止まりませんでした。

僕は今、剣道部のある中学校に進学するか、友達がたくさんいる中学校に進学するか迷っています。友達には、同じ中学校に行こうと誘われています。しかし、剣道を通して目標を達成する難しさと喜びを知り、最近剣道にはまっている自分があります。

目標に向かう気持ちが、自分を成長させてくれると実感し、剣道とこれからも新しい目標に向かい続けたいです。

剣道と一緒につかんだ目標は僕の宝物です。



剣道で学んだこと

福島県 陵武館山崎道場

福島市立吉井田小学校 6年 松井 悠 真

唱和一つ、あいさつをする。

一つ、親切にする。

一つ、はきものをそろえる。

これは、ぼくが通っている山崎道場の唱和の一部です。この唱和を毎回、けいこの最後にみんなで大きな声を合わせて心に留めます。ぼくはこの春山崎道場に転入してきました。初めて山崎道場のけいこに参加したとき、練習方法や考え方がちがいとでも勉強になったのですが一番心に残ったのは唱和でした。三月までに通っていた剣友会には唱和というものがなく新鮮に感じたからです。新鮮だなと思う一方で疑問がわいてきました。そう思うのは唱和の内容がぼくの考えている剣道のイメージとどう結びつくのか分からなかったからです。その唱和に書いている内容の中で、一番剣道との結びつきが分からなかったのははきものをそろえるということでした。しかしそんな疑問も忘れてしまうくらい、それぞれの先生方からいろんな注意や指摘を受ける日々が始まってしまいました。どうやらぼくはとんでもなくクセの多い剣道をしてきてしまったようなのです。注意された内容が、基本的なものだったのでさらに落ちこんでしまいました。

一ヶ月経ってもクセ直しの指導が続きました。好きな剣道が苦しい剣道に変わっていきました。自分でクセを直そうと努力しているのに少しも直らず自分には剣道は向いていないのかなと思っていました。ちょうどそのころ先生からみんなに宿題がでました。

「唱和のはきものをそろえるとはどういうことか考えてきなさい。」

というものでした。

登校中やけいこに通う途中、先生からの宿題の答えを考えました。そうして考えついたのは、はきものをそろえるとは人を思いやるということ、そのように細かいところに気づけると相手の弱点にも気づけるようになるということでした。今までは強くなって勝ちたいと思うだけでした。でもこの答えが出せたことにより周りにいる人たちのことを考えて行動することの重要さが少し見えてきた気がします。

クセを指導されてきたことは実はすごくありがたいことなのではないかと先生方に対する感謝の気持ちに気づくこともできました。それまでは注意されると落ちこんだりいやな気分になっていましたが感謝の気持ちに気づいたら、よしがんばるぞ、なにがなんでも直そうと思えるようになりました。

ある日、ぼくのクセが一つ直っていました。ぼくはそのときとてもうれしかったです。今まで練習してきたよかったなと思いました。そして完ぺきに自分のものにできるようにがんばりたいなと思いました。そんなうれしいこともつかのま、また先生から新しい課題がだされました。山崎道場では一つ課題克服するとまた次の課題がだされます。ぼくはまだ直さなければいけないことがたくさんあるのでこの指導が永遠に続いてしまうかと不安な気持ちになります。でもこの山崎道場の唱和に出会えたことによって人を思いやり親切にするということが学べました。これからも厳しいけいこにたえる心をきたえていきたいと思います。大人になっても剣道が好きで続けていられるように、今ぼくは先生からの課題を一つ一つ乗り越えて正しく剣道ができるようにがんばりたいです。



自分を信じて

宮城県 正心学館道場

石巻市立石巻小学校 6年 瀨名 凜音

「めい想ーっ。」

稽古を終えた私たちは目を閉じて頭も心も、真っ白にします。正座をし、背すじをピンとのばしてめい想をすると心がすーっと落ち着き、気持ちを整理することができます。そして自分の心に問いかけます。

「今日私は自分に勝つことができたかな？」と。

私が剣道を始めたのは六才の時でした。友達に誘われて初めて見た剣道に胸がドキドキしたことを覚えています。両親は東日本大震災の後、地域のつながりが無くなってしまった事を心細く感じていたそうです。近所の友達も引越して私も寂しい気持ちでいっぱいでした。そんな時、たくさんの先生と子どもで活気あふれる正心学館道場と出会い、その輪の中に私と妹は仲間に入れてもらいました。

靖和闘魂。この言葉には正心学館道場の思いが込められています。おだやかな心を大切にしながらも勝負の時には魂を燃やして強い気持ちで戦いに挑むという事だそうです。先生方はこの思いを込めて私たちに剣道の素晴らしさを教えて下さいます。私もそんな剣道ができるようになりたいと思い描いて、一生懸命に稽古をしました。でもとても大事な気迫を出すという事がなかなかできませんでした。大きな声をおなかから出すことができず、試合に出ても教えてもらった剣道ができなくて涙があふれました。私は普段から恥ずかしがり屋で人前に出るのも苦手な方です。うまくいかず、悩んでいる私に母は「そのままの凜音でもいいんだよ。無理して剣道をしなくてもいいんだよ？」と言ってくれました。でも私はその時、剣道をやめたくないと思っていました。そして父の姿がうかびました。

私の父は私と妹と一緒に剣道を始めてくれました。でも途中で胸に心臓の働きを助けるためのペースメーカーを入れる手術をする事になりました。機械を入れたので左胸が四角く出っばっています。その時にもう一緒に剣道はできないのかなと思いました。しかし、一年後先生から許可をもらい、父は大喜びして稽古を再開しました。いきいきと竹刀を振る父を見ると、剣道が好きだという思いが強く伝わってきます。私は父と同じように剣道をあきらめずに続けたいと思いました。稽古や試合で涙が出るのは、自分に負けたくない、もっと成長したいという気持ちがあるからだと思えました。

それから週三回の稽古に励み、私は今、十二才になりました。あの時よりも少し心が強くなった自分があります。剣道では前へ前へ攻める事を意識できるようになりました。学校でも勇気を出して発表や発言をする事ができるようになりました。これからも悩んだり、迷ったりすることはたくさんあると思います。でも先生方は努力は決して裏切らないと励まして下さいます。仲間たちは一緒に頑張ろうと力になる言葉をかけてくれます。妹はお姉ちゃんのようになりたいと言ってくれます。母は試合の度に早起きして私の好物を作ってお弁当に入れてくれます。そして父は強い気持ちで三段を目標にその挑戦する姿でたくさんの事を教えてくれます。こんなにたくさんの人の支えがあって剣道をする事ができています。これからどんな時でも負けずに頑張ることができるはずです。

私の目標は優しく強い人になることです。自分に勝ち、弱い自分を乗り越えることで、いつか優しく強い人になれると信じています。大好きな私の名前のように、凜とした強い心でまっすぐな美しい一本が打てるようにこれからも剣道を学んでいきたいと思えます。



仲間と共に

岩手県 新明館橋市道場

盛岡市立上田中学校 2年 村松 和花菜

中学一年の春、六年生では四人いた道場の同級生達が、進学や引っ越しのため一人に減ってしまい少し寂しい春を迎えた。そんな私に、新しい仲間が増えた。それが部活動の仲間達だ。七人全員が初心者で、そのうち女子は二人。どちらも新しいチャレンジへの意欲にあふれていた。部活動の限られた時間の中で少しでも上達しようと真剣で、先輩たちの姿勢や技をよく観察し、真似できるところはどんどんやってみる。そんな仲間たちの姿は、剣道を始めたばかりで毎日が新鮮で楽しかった頃の自分の姿と重なり、私も負けていけないと、部活動でも道場でもそれまで以上に稽古に励んだ。

一年の新人戦では、三人揃って団体戦に出場し、公式戦の緊張感と、試合で初めての一本を決めた喜びを分かち合えた。先輩たちの活躍のおかげで県大会で三位に入賞し、県内外の錬成会の機会も増えた。大きな錬成会になるほどレベルは高く刺激も受けたが、なかなか技を決められない悔しさから、仲間の一人が「勝ちたい」と涙を流した。小四の秋、初めて防具をつけたばかりの頃、みんなが当り前にできることが自分だけにできず、稽古が終わり面を外したのと同時に涙がこぼれた時の自分を思い出し、「一緒にもっと稽古しよう」と約束した。冬にはもう一人の仲間が、稽古中のけがで一か月以上稽古に参加できなくなった。小六の夏、骨折し一か月間扇風機の後ろから暑さの中で頑張るみんなの稽古を見学するしかできなかった自分を思い出し、彼女の悔しさが自分のことのように悔しかった。そんな状況でも、仲間を気遣い声をかけつづける彼女の強さに憧れた。

二年生になり、かわいく頼もしい後輩たちが入部し、仲間の輪がまた広がった。そうして迎えた夏の中総体。団体優勝の目標を掲げた私たちは、決勝戦で代表決定戦の末に敗れた。いつも笑顔で私たちを励まし、その陰で目標へ向けて努力を怠らなかった憧れの先輩達が、泣き崩れる姿を初めて見て、私たちが涙が止まらなかった。そんな私たちに、道場の先生が稽古をつけて下さった。すぐには立ち上がれなかった私の横で、補員に回った二年の仲間が、面をつけて一緒に先生の稽古の列に並んでくれた。あと一本がとりきれなかった私の悔しさより、試合に出られなかった彼女のほうが何倍も悔しいはずなのに、彼女はもう前を向いていた。

稽古を重ねる中で、上達の喜び以上に、思うように結果を出せない悔しさも大きかったと思う。それでも二人はどんな場面でも、そこから何かを学ぼうと明るく前向きだ。そこには、目指すべき先輩たちの姿があり、先生の熱い指導があり、チームみんなを応援してくれる家族がいた。そして、お互いに負けず嫌いな私たちは、頑張る姿で励まし合い、支え合い、高め合える仲間であり、競い合える最高のライバルだ。その存在が、お互いを動かす大きな力になっている。

私の通う道場では、私たちの稽古が終わると大人の先生たちの稽古が始まる。高校生から祖父母の世代まで幅広い先輩たちが道場で竹刀を交える様子は、剣道が生涯現役で続けられる武道であり、人と人をつなぐ大きな力を持っていることを教えてくれる。私も剣道を通じてかけがえない仲間に出会えた。みんなが剣道を始めてくれたこと、剣道を好きになってくれたこと、一生懸命取り組む姿勢でいろんなことを教えてくれることに心から感謝している。これまでと、これから出会うたくさんの仲間たちと、これからもずっと剣道を通して成功し続けたい。

三年生が引退し、私は部活動の新チームでキャプテンになった。実力も自信も足りない私の背中を仲間みんなが押してくれた。今年の悔しさを経験した私たちだからこそ、やり遂げられることがあると信じている。仲間と共に、目標へ向かい、私たちの剣の道を一緒に切り拓いていきたい。



私の剣道

岩手県 和賀巖身会

北上市立和賀東中学校 2年 下 留 梨 瑚

私は、四年半剣道をやってきました。たくさん試合もしてきました。けれども、ふとこんなことを思う時があります。「私の剣道って何なのだろう。」と。剣道を何年もやっているのになかなか勝つ事ができず、一回戦敗退がほとんどでした。それはきっと自分の剣道がないからだったと思います。今、思えば強い相手には圧で負けてしまい、弱い相手や初心者には合わせてしまっていました。周りの一緒にはじめた仲間は自分の剣道があって、自分なりの戦い方をしていて、その仲間たちの試合は見ていておもしろかったし見ごたえがありました。しかし、「自分はどうなんだろう。」と、仲間と比べて落ちこんでしまいます。仲間と比較して、自信をなくし、“自分”をもてないことが、自分の剣道が見つからないこととつながっているんだと思います。「剣道は礼儀も大事だが、一番大事なのは気持ちなのだ。気持ちしだいで戦い方は変わる。下がる試合、自分から出ていく試合。自分の剣道は気持ちしだいで作ることができるのだ。」ということが最近分かりました。

もう一つ最近分かった事があります。それは先生の言っている、こいこいです。これは、相手を左足で押して誘い、相手の打とうとする瞬間や戸惑う瞬間を打つというものです。この事が分かったら試合でうまく使えるようになったり、面が当たるようになったりしてきました。こいこいが分かるようになったので、出でてや抜き胴も試合で使えるようになりたいです。

小学校の頃に剣道を始めて、一年ぐらいいいやいや稽古にかよっていました。今までの習い事も辛かったけれど、何とか続けることができていました。しかし、剣道は辛いうえに先生が怖かったのです。だから、最初の頃はため息をつきながら、時には泣きながら稽古にかよっていました。でも今は、稽古をして身につけた技を試合で出したりすることが楽しくなってきました。それからはただただ剣道をするのではなく、目標をたててそれに向かって稽古をするようになりました。小学校から剣道を始め、基本をきちんと教えていただいたからこそ、運動神経の悪い私でも何とかここまでこれたのだと思います。なかなか伸びない私に、何度もくり返し教えてくださる先生や、勝つ事も少ないのに練習の送り迎えをしてくれたり、試合に見に来てくれたりする親に本当に感謝しています。

最近、巖身会では、自分の反省や稽古のポイントをノートに書くというのをやっています。そのノートを書くことによって、私の課題が見えてきました。「礼儀や心の持ち方」、「素振り」、「切りかえし」、「試合」の四つの項目がある中で私がなかなか書けないものがあります。それは「心の持ち方」です。先生の言ったポイントは頭に入っていて、スラスラ書けるのに、気持ちの持ち方は書けません。これは私の大きな課題です。剣道で一番大事なのは気持ちだからです。自分の剣道が見つからないのもそこに課題があるからだと思います。強い意志と気持ちがあれば戦い方だって自分の思い通りにできるはずですよ。『巖^{いわお}の身』これは巖身会の団旗にかかげてある言葉です。ずっしりとして、少しの事ではびくともしないという意味だそうです。私も目標に向かって意志、気持ちをしっかりと強く持ち、巖の身のようなずっしりとした、自信に満ちあふれるような剣道をしたいと強く思っています。自信を持って、自分の剣道で相手と戦えるように。

「勝負あり！」この声を悔いなく聞けるようになるために。



剣道から学んだ私

青森県 青森紘武館

青森市立南中学校 3年 鳴海綾音

私と剣道との出会いは、中学校へ入学して部活動紹介の時でした。先輩方の凛々しい剣道の姿を見て感動し、「私も剣道がやりたい。」と胸が熱くなりすぐに剣道部に入部しました。

剣道に出会う前までの私は、スポーツの経験は全くなかったのですが、剣道部に入部してからは、自分に新たな目標を見つけることができ、毎日の生活に楽しみができました。

部活動の練習では、剣道の基本、打ち方、技の出し方など、顧問の先生の厳しい指導になれるまではとても大変でした。

しかし、一つ一つ覚えていくことで、体が自然に動くようになり、どんな辛い練習でもがんばり続けていくことで、先輩方のような凛々しい剣道ができると信じて努力していました。

そして私が一年生のときの夏季大会で、先輩方が団体戦で優勝する瞬間に立ち合う事ができ、「私も試合に出て勝ちたい！」と強く思うようになりました。

その後、私が初めて試合に出たのはその年の秋季大会でした。仲間と共に今まで厳しい練習をしてきたので結果を出したい思いで必死にのぞみました。その結果、初めての試合で二本勝ちをすることができました。これまで経験したことのないくらいの緊張と、感動と、喜びを感じ、これからも厳しい練習にたえて、「また必ず次も勝つ！」と心の中で思いました。

しかし練習や試合を重ねていくうちに、自分の考えている目標や理想に届かず、何が足りないのかを悩み考える時期がありました。

そんな時に父が

「目標としている剣道があるのなら道場へ行って稽古に励んでみたら？」

と私の背中をポンと押してくれました。

緊張しながら道場へ行ってみると、雰囲気がとても明るく、指導していただける先生方も親切で私の剣道への熱い思いがまた込み上げていきました。そして道場の稽古では、今まで気づかなかった体の動かし方や、自分に足りない部分を指導していただき、たくさん吸収することができました。

特に館長先生には、

「剣道は試合をすることだけでなく、心と体を鍛えるために、一所懸命に稽古することが大事だ！」

と教えていただきました。また道場訓の「継続は力なり」の言葉通り、続けて稽古することで、自然と試合の結果はついてくる！と指導していただき私もその言葉を実感しています。

私は中学校で剣道と出会い、部活や道場の稽古から、剣道の技などはもちろんですが、精神的な面でも鍛えられ、自分の思い通り成長が感じられるようになりました。剣道をやっていてよかった、と心から思っています。

剣道をやらせてくれる両親や、一緒に稽古していただける先生方、そして仲間たちに感謝しながらこれからも大好きな剣道を続けていきます。

そして、来年高校生になっても「継続は力なり」の言葉を胸に、自分に負けず強い意志を持ってがんばっていきます。



交剣知愛

秋田県 土崎道場
土崎中学校 2年 宇佐見 千 紘

土崎道場に初めて足を踏み入れたとき、一瞬で、信頼できる先輩と仲間を見つけることができました。剣道には、このように、人と人とを巡り合わせ、よい縁を結ばせる力があると私は考えます。

剣道をやっていたおかげで、他にもいろいろな人に出会い、たくさんの友達をつくることができました。特に、遠征で、市外や県外にも友達の輪が広がっていったことを、私はうれしく思っています。

中学校の錬成会では、互いに審判をしたり合同チームを作ったりして、他校の人と協力して試合をする機会が多くあります。そのような錬成会で何度か顔を合わせるうちに、

「友達になりたいな。声を掛けようかな。」

という思いが強くなり、私は、勇気を出して他の道場の人に声を掛け、友達になったことがあります。

普段は離れていて顔を合わせることでできない友達ですが、遠征に行けば会って剣を交えることができるので、それが遠征の楽しみの一つになりました。

ある遠征の時のことです。久しぶりに会った青森県木造中学校の選手と、今度会ったときにはお土産を交換しようという話になりました。いつ渡すかということ話し合っているうちに、どちらからともなく、

「東北大会で渡そう。」

ということになりました。そのときには、その約束を、そんなに深い意味では考えていませんでしたが、後から考えると、とても大きな約束だったことに気がつきました。

東北大会は、出ようと思って出られる大会ではありません。市や県の大会を勝ち進まないと、その舞台に立つことはできないのです。

知らず知らずに結んだその約束は、私の中で大きな励みとなり、

「絶対に東北大会に出る。」

という強い思いに変わりました。出場を決めたときには、苦しい練習にも負けずに頑張ってきて本当によかったという思いと、友達との約束を守ることができたといううれしさが重まりました。

剣道には、「交剣知愛」という言葉があります。「剣を交えておしむを知る」と読み、剣道を通じて互いに理解し合い、人間的な向上を図ることを教えた言葉です。「愛」には「惜しむ。大切に手を離さない。」という意味があり、「あの人もう一度稽古や試合をしてみたいという気持ちになること、またそうした気持ちになれるような稽古や試合をしなさい」という教えなのだそうです。

私にも、もう一度試合をしたいと思う選手がたくさんいます。そう思えるのは、私に対して真剣に稽古を付けてくれたからだと思います。だから私も、この言葉の通り、誰と試合や稽古をしても一生懸命に、真剣に立ち向かいたいと思いました。

もしも私が剣道をやっていなかったら、私の関わる方々は半分減って、今のような充実した日々は送ることができなかったと思います。

信頼できる仲間や先輩方、温かく見守ってくださる先生方や保護者の皆様、そして他県のライバルや理想の剣士…。たくさんの方々に巡り合って剣を交えたり挨拶を交わしたりすることができるのを、私はとても幸せに感じています。

「秋田県土崎道場の宇佐見千紘選手はとても爽やかな選手だから、また稽古をしたいな。」

そう言ってもらえるようますます精進し、そして自分からも、様々な選手に積極的に稽古をお願いして、いろいろな剣風に触れたり技を競ったりしてみたいです。

これからも私は、土崎道場で剣道を続け、たくさんの人と関わり、人と人との輪を広げていきたいと思えます。



つながり広げて強くなる

山形県 清流館道場みずき

東根市立第一中学校 1年 中 田 喜 子

「ありがとうございました。」

「次もまたよろしくお願いします。」

今日の稽古も、いつものようにこの言葉を口にします。当たり前のようにする挨拶だけれど、これで高段者の方や先生方とのつながりを感じます。幅広い年齢層の先生方と剣を交え多くの指導をしていただき、また先生方の方から様々なお話をしていただきます。それにより、私の人生はより豊かなものになりました。このようなつながりは剣道が強くなるためには必要ですが、中学生としてや中学生同士のつながりは本当に大事なのか。また大事だとして、なぜそのつながりは大事にすべきなのか。私は自分に問いかけました。

中学校に入って様々な錬成会や大会に参加し、私たちはチームの雰囲気上げることで必死でした。でもふと周りを見ると、違う道場の子たちが仲良さそうにはなしをしていました。さらにその子たちは県内強豪校の子供達ばかりだったのです。きっと多く剣を交えて、戦うときは一步もゆずらず、終わった後は仲良く話をして互いに敬意を持ち認め合う関係を作っているからつながれているのだと思います。また、そういった関係で結ばれた剣友やその剣友との一つ一つのつながりを大事にしていました。だからこそより本気でぶつかって、力を高めあっているのです。このことから、強さとつながりは比例しているのではないかと思いました。

つながりを大事にしている人ほど強く、強い人ほど多くのつながりの中で生きています。そのためこれから強くなっていくためには、つながりを大事にしていくべきだと考えました。

でも実際のところ、私はできていません。同じ道場には剣友と呼べる仲間たちがたくさんいますが、違う道場の人とはまったくと言っていいほどつながりをもてていません。私の性格といえば、人に対しては自分から話しかけることができない内気な方です。でも、面をかぶったら人より早く打って一本を決めるため積極的に攻めて打ちます。最近では先鋒を任されることが多く、チームの雰囲気を作る為、相手チームにインパクトを与えようと先に声を出し、先手先手で打っていきます。じっとしているのではなく常に「攻め！攻め」の剣道をしようと体を動かします。

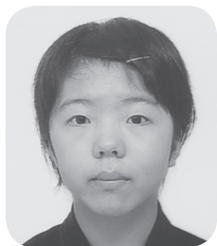
人とのつながりを作っていくということを考えると、面をかぶった強気の自分と面をはずした普段の自分はまるで正反対。自分から声をかけるのではなく声をかけられたらどう答えようか考えて、考えて、答えを出します。恥ずかしい…緊張…結局声が出ず話せていない自分が情けなくなります。克服したい。でも、どうしたらいいのだろうか…？

ある時の錬成会。相手道場の体育館に入ると、

「お願いします！」

と元気な声が飛んできました。顔を見ると皆笑顔で迎えて下さいました。その時胸が熱くなり、つながりの始まりを感じた事を思い出しました。つまり、相手のことを思って出る笑顔がつながりを作る大切な役割を果たしているのです。今までの私は、返事の内容を頭の中で探すのが必至で顔がこわばっていたのかもしれませんが。

でも、これからは違います。「お願いします」や「ありがとうございました」といった笑顔のあいさつや自分から話しかけるなど、小さなことからちょっとずつ挑戦していきます。そしていつかあいさつだけだった関係からステップアップして剣友というつながりを自分からつくれる強い剣士を目指します。そして、剣道以外でも敬意を持たれる人になりたいです。また、剣道を通して幅広い方々と知り合えることに喜びを感じて、一生懸命稽古に励んでいきます。



伝 統

新潟県 心武館道場

私立新潟明訓中学校 2年 鈴木 晴 菜

「姿勢を正して、黙想。」

私は道場内で最高学年となり、号令をかける立場になりました。号令を掛けるときは、後輩への目配りや気配りが必要で、後輩との関わり方を考えるようになりました。

昨年の冬、歯の矯正で面が着けられず、館長先生から小さい子のお世話をするように言われました。集中も続かず、小さい体なので、小まめが休憩が必要でした。伝えることの難しさを知りました。私が剣道を習い始めたとき、根気よく教えてくださった先生のおかげで、今の私がいると改めて感じました。

私が剣道を始めたのは小学二年生の時、初めての道着は道場の先輩のおさがりでした。道場の名前と、先輩の名前が入った袴を着て、稽古の帰り、スーパーの店内を走り回り母からひどく怒られました。

「剣道、道場、先輩の顔に泥を塗ったんだよ。わかる？」

そう言われ、自分の行動を恥ずかしく思いました。

道着を着ているということは、剣道を学ぶ者、どこの道場で教わっているかなど、一個人の問題ではなくなるということです。大げさですが、剣道を背負う、道場を背負う、という気持ちが必要だと思いました。おさがりをもらうということは、先輩の気持ちや道場の伝統も、一緒に受け継ぐということです。

しかし伝統とは、目に見えるものではなく感じるものです。言葉で伝えるものではありません。

それを感じる出来事がありました。小学生の錬成会の時、一人で面を外せない低学年の子のお手伝いをしました。その保護者の方から、

「どこの道場の子？」

と聞かれ、

「心武館道場です。」

と答えると、

「心武館道場さんはみんな優しいのね。」

と言われ、自分が褒められた以上に、道場を褒められ、また道場の一員として認められたような気持ちになり、とても誇らしく思いました。いつも道場の先輩たちが、優しくしてくれたおかげで、自分も優しいことができたのだと思います。

伝統とは、目に見えるものではありません。その代によって、メンバーは違い、雰囲気やカラーも違いますが、どの代も、考え方や気持ち、行動は似てくるものがあるとおもいます。

どうして、似てくるのでしょうか。それは、日々の稽古の中で、間違ったことを注意してくださる先生方や、また気持ちが緩んでいると館長先生が正してくれるからです。

剣道とは、稽古を通じて人間形成を目指す武道です。すなわち、日々の稽古の積み重ねが、自分に染み込み、そして、身につき、やがてひととなり、になります。

稽古を通じて、人として正しいあり方を教えてくださる館長先生、先生方に感謝し、先輩たちから受け取った、伝統という名のバトンを、次の代へ渡していきたいです。

そして、私は胸を張って、心武館道場の鈴木晴菜です。と言える私になりたいです。



「振武」に込められた思い

福島県 振武館

須賀川市立第二中学校 1年 須田 琴菜

剣道の大会にはいつも、参加している団体の旗が揚げられて華やかだ。

私が所属するスポーツ少年団の名は、「振武館」という。団旗は鮮やかな紫、私の大好きな色に染められている。そこに牡丹の花とともに大きく白で、「振武」の二文字。

団旗は、私にとってとても大事な旗だ。もちろん、日本の国旗や、学校のシンボルである校旗も大切だけど、国旗は、いつも身近にあって、試合の度に私たちの心をまとめ、試合に臨む気持ちや勝利への気持ちを呼び起こしてくれるのだ。大きな「振武」の文字が試合で辛い時間帯に目に入ると不思議と力が湧いてくる。

その力の源はきっと団名にある、と思って私は、辞書を引っ張り出し、「振」と「武」の字にどんな意味があるか調べてみた。

「振」は振るう。もちろん、剣を振るう、の振るう、だ。その文字は私に、竹刀を振れ、もっと速く、もっと強く、もっと全身全霊で、と言っている。

そして「武」は？あらためて調べるまでもないだろう。「武士」の、「武」。強い攻撃力を表す文字、と学校で習った。そう確認して辞書を閉じようとした私の目が、二つ目の意味を捉えた。…えっ？そんな意味があるの？「武」…「半歩」を表わす単位。

現代の日本では片足を前に出すことを「一步」と言い習わすようになっているが、本来は両足を交互に一度ずつ出して、「一步」としたのだ、と辞書には書いてあった。そしてその半分、現代でいうところの「半歩」を表すのが「武」という単位。つまり「武」は本来、踏み出す一步のこと！

もう一つ、思い出したことがある。神社の秋祭りでのことだ。神輿を担いでいく日、神社のお神輿は町々、里々を廻ってきて、日が暮れた頃、神社鳥居前にやってくる。参道から神社に神さまが帰ってくるのが「宮入り」だ。観衆の盛り上がりも最高潮に達するその時、担ぎ手たちが一斉にお神輿を上下に激しく動かし始めるのだ。上に！下に！大きな神輿がびゅんびゅん揺れる。

これは、「たまふり」と言って、魂を奮い立たせるおまじない。

ことで、乗っているご神体の力を高めるのだと教わっている。もしや、と思い、もう一度辞書を開く。やっぱりだ。「奮い立たせる」の「奮う」の字と「振武館」の「振る」の字は同じ語源だと書いてある。

稽古の後の指導の時間、先生はいつも「足を大切にしろ」とおっしゃる。私は足の運びがずっと苦手だった。特に、ここぞ、という時に思い切った一步で踏み込むことができない。この間の団体戦もその一步を一瞬迷い、引退がかかった先輩の花道を作ることができなかった。一步を踏み出せないのは、心が奮い立っていない証拠だった。

もう、負けたくない。身を捨て、相手の懐に踏み込む一步に迷いたくはない。

これから私は、いくつもの大会に出るだろう。苦しいとき、負けそうなとき、心が折れそうな時には団の名前を思い出したい。私が身につける垂れに入っているその名前。掲げられた団旗を見れば、百花の王たる「牡丹」を従えた、誇りある名前がそこにある。

私の団の名は、振武館。私にとって、魂を奮い起こし、強い心で踏み出す一步を表す名だ。私は団員として、その名を背負う。私まで繋げてくれた人達がいる。私の一步を待っている人がある。その思いと共に、私は大きく踏み出してゆく。



形のない宝物

宮城県 仙松館

仙台市立幸町中学校 1年 狩野景衣

人は、それぞれ大切な宝物を持っています。「家族」や「友情」、「興味のある物」「お金」など、いろいろな宝物がありますが、大きく二つに分けられると思います。それは、形のある宝物と形のない宝物です。

私にとっての宝物は、「剣道」です。剣道は、絶対にやめたくない、絶対に負けたくない、絶対にあきらめたくない、私が負けずぎらいになり、心が強くなったきっかけです。

剣道を習い始めて、最初に剣道の先生が教えてくれたのが「礼に始まり礼に終わる」です。試合においては作法を守り、また敬意を示すことが、何よりも重んじられるべきであるという考え方です。礼儀・礼節をもって試合に臨むことは勝敗よりも重要であると教わりました。あわせて、何事も中途半端にせず、きっぱりと最後までやりとげることが段々身に付くようになりました。

防具を着けての練習が普段の稽古になっていくと、嬉しいことが増えていく一方、困ったことも増えていくようになりました。剣道の稽古や試合の日に他の予定が入るなど、思うように稽古に集中できなくなりました。あらゆることがうまくいかず、悩むことが増えストレスばかりが溜まります。それでも前を向いて何事も先をみて進み、どんな困難でも乗り越えていきました。

しかし、大会での団体戦のレギュラーに選ばれず、私はいつも補員でした。試合のたびに、また補員なんだなと思い、仲間をうまく応援できませんでした。けれど、そんな時でも練習を休んだりはしませんでした。土砂降りの雨の日も大雪の日も、母が仕事でいなくても、少し体調が悪くても、一人で道場に通いました。そして個人戦に出られる時は思い切り戦いました。そのため、ほとんどの試合でベスト8以上の成績を取めることができました。

私の他の習い事と剣道は何か違うものを感じます。その何かは自分でもよく分かりませんが、その何かと感じとるのは、剣道が私にとって一番の宝物だからだと思います。

今まで、形のない宝物をいくつ掴み取ってきたことでしょうか。ただ友達がやっていたから入った剣道がこんなに大切な宝物になるなんて、全く想像もしていませんでした。私を剣道へと導く道が目の前にあったのだと思います。自分でも気付かないうちに楽しくなっていたり、何があっても捨てたくないと思うのはもう「宝物」としか言いようがありません。小さなきっかけでも、自分のちょっとした決断でも、投げ出さず、あきらめず、努力を重さね続ければ、それはいずれ大きな宝物になるのだと実感しています。

剣道を通して、私はたくさんのかんことを身に付けてきました。「自分に勝つこと」や「集中力」もその一つです。自分の弱い気持ちと戦い、勝つことができ、本当に悔いのない試合ができたこと。一瞬も気を抜かず、隙をついて打ち込み、今まで勝てなかった相手に勝利したこと。少しずつ私の中で育っていた力です。これからも自分自身に打ち勝ち、集中してどんな試合にも、自分の未来にも挑んでいきたいです。剣道が一番の宝物だと、これからも胸を張って言えるように精進していきます。